「日々の理科」(第 1650 号)　2019 (H31),-1,14

「月齢１の月を撮影する（４）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

「月齢１の月」が沈む、１月７日の夕方、東京のコンピュータを埼玉県小川町の観測カメラに接続した。このカメラは、恒星なら９等星まで写せる性能なので、私は最初、あっさりと「月齢１の月」が見つかると思っていた。しかしそう簡単ではなかった。

日没 20 分後ぐらいから、笠山の山頂付近にカメラを向けて探索したが、全く見つからない。この日の月の入（月没）は 17:10、かなり焦ってきた。

しかし 17:06 に、ついに笠山山頂の左上に、淡く弧を描く物体をとらえた。私は「アーーー、あった！あった！見つけた！」と大声を出したので、となりで仕事をしていた同僚が、何事かとびっくりしていた。

カメラのシャッタースピードを少し下げて、露出を上げると、はっきりと「月」とわかるようになった。

「月齢１の月」　東京から遠隔操作で撮影
2019 年 1 月 7 日　17 時 09 分 02 秒
埼玉県比企郡小川町笠山　／　C. Tanaka

それにしても細い！まるで糸のようだ。細い月が「途切れ途切れ」に見えるのは、月の縁の地形（クレーターや山脈の凹凸）の影響で、太陽光がうまく当たっていない場所があるからだ。風でも吹けば、粉のようにバラバラになってしまうような月である。

17 時 11 分、月齢１の月は笠山山頂の右下に沈んでいった。この日、小川町だけでなく、恐らく日本中でこの月を見ることができたのは、何人いただろうか？もしかしたら、私一人だけだったかも知れない。恐ろしいほど美しく、孤独な月だった。